



長崎大学大学院工学研究科 大学の世界展開力強化事業
アジアの大学間連携による持続的社会基盤整備を支えるグローバル人材育成事業

CAMPUS Asia

世界のインフラを支える エンジニアになろう!

中国、韓国、シンガポール、ラオスの大学で学び、
世界のインフラを支えるエンジニアになろう!
その実現を応援するインフラ人材育成プログラムです。

長崎大学 (日本)

山東大学 (中国)

成均館大学校 (韓国)

南洋理工大学 (シンガポール)

ラオス国立大学 (ラオス)

ニーズを捉え、 アジアに羽ばたく インフラ技術者へ。

経済的發展ステージによって、インフラの需要は変化していきます。アジアを牽引してきた日本は円熟期～停滞期で、老朽化するインフラの維持管理や更新技術開発がメインになっています。一方、飛躍的成長期の国では大規模インフラの新設技術開発が必要です。さらに、経済初期段階の国々では今後10年間でインフラ整備が急速に進むことが予想されます。それぞれのニーズを的確に捉え、インフラ整備を技術面から支える国際的な人物が、これからアジアでは強く求められることでしょう。この現状を踏まえ、本プログラムではアジアの基盤を支える、高度な専門性を持った人材育成を目指します。

育成する人材像

各国のインフラ状況に合わせて活躍できる、国際的なインフラエンジニアのスペシャリストを育成

- アジア各国のニーズにマッチした持続的インフラ整備を、技術面から支える国際的に活躍できる人材
- 最新の技術・考え方を柔軟に取り入れ、指導的立場でインフラ技術の発展に貢献できる人材
- 他民族・他文化を理解し国際的なプロジェクトを共同で企画・実行できる人材
- キャンパス・アジアで形成されたコミュニティを自発的・持続的に発展させることができる人材

学生募集・選抜方法

キャンパス・アジアプログラムでは学生のニーズに合わせ、下記の3つの学生交流プログラムから構成されています。各大学間で設定された入学スケジュールと、それぞれの大学における選抜基準に基づき厳格に派遣学生を推薦します。推薦された学生は、受入先の大学において入学試験を実施し、出願資料の提出やオンラインでの面接試験などを経て留学が決定され、キャンパス・アジアプログラムに参加できます。詳細な学生募集情報についてはお問合せ先までお問い合わせください。

日中韓ダブル・ディグリープログラム

日中韓三大学の間で
2大学双方向によるプログラム

博士前期課程:2名 / 年
博士後期課程:1名 / 年
の学生を各大学間相互に派遣



ハイブリッド型短期留学プログラム

2か月のオンライン留学と各国1週間ずつの現地
留学を組み合わせたプログラム。各国の大学が持
ち回りで、ホスト国の学生が企画・運営に携わる

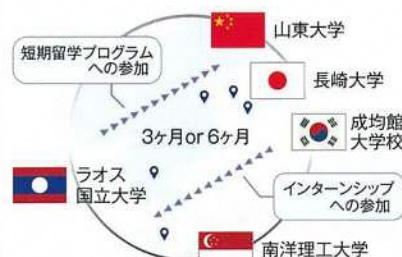
日本、中国、韓国より各8名 / 年
シンガポール、ラオスより各2名 / 年
をそれぞれ派遣



ASEAN拡張型短期留学プログラム

ASEAN各国の特徴に合わせた
拡張型短期留学プログラム

ラオスより日本・中国・韓国へ各1名 / 年
を短期留学プログラムへ派遣
日本、中国、韓国よりシンガポールへ各1名 / 年
をインターンシップへ派遣



※詳細な学生募集情報についてはWEBサイトをご確認ください



山東大学(中国)

中国にある大学の中でも最も古くに設立された名門大学の一つです。キャンパスアジアでは、2007年に共同研究を初めて実施して以降、研究者や博士課程学生を毎年受け入れてきた経緯があり、2010年には学術交流協定及び学生交流の覚書を締結。同年の文部科学省事業でコンソーシアム提携校として山東大学から毎年2人の入学者を受け入れ、このうち2人が博士後期課程へ進学するなどの交流実績を上げてきました。また、国際シンポジウムの

開催や教員間の交流など幅広い活動を活発に推進し続けています。

本事業に向けた準備としては、「ダブル・ディグリー制度に基づく長期留学(博士前期課程)」を継続するとともに、新たに「ダブル・ディグリープログラム(博士後期課程)」を構築。覚書と実施要項をすでに締結し、実施体制を整えています。さらに山東大学主導の日中韓+ASEANの大学間に「国際コラボレーションラボ」を設立する計画も。



成均館大学校(韓国)



成均館大学はソウル特別市鐘路区に本部を置く大韓民国の私立大学です。2016年の文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の第2モードが採択された時にはコンソーシアム提携校として双方向の交流を展開。事業期間中に受入・派遣交流プログラムを実施し、のべ61人の学生が交流を行いました。さらに2018年度には成均館大学の金教授が本学工学研究科の社会環境デザイン工学コースの客員教授として赴任し、共同研究の推進にあたりました。

世界展開力強化事業(第2モード)を中心に、教員・学生間の交流を活発に行っており、今後も質の高い、双方向からの実践的交流が予定されています。本事業の展開などに関する意見交換はすでに複数回実施しており、「ダブル・ディグリー制度に基づく長期留学(博士前期課程)」を継続する覚書と実施要項も締結済み。事業開始後はプログラムの実施に向けて詳細な協議や準備を推進し、2022年度中に実質的な学生交流が展開できると考えています。

南洋理工大学(シンガポール)

南洋理工大学はシンガポールで2番目に大規模な大学で、約3万人の学生と1万人ほどの教職員が在籍しています。QS世界大学ランキング2022年度版では世界12位と評価され、アジアナンバーワンの工科大学として優秀な人材を輩出している大学です。メインキャンパス(ユンナンガーデンキャンパス)は200ヘクタールと広大で、シンガポール最大の規模。ジュロンウェスト街に隣接していて、建物は新しく開放的なため、学生からも人気です。シンガポー

ルでは人口密集都市部の地下空間の開発利用や社会基盤施設の維持管理が重要課題であり、南洋理工大学環境土木系の教員が世界的にも高いレベルの成果を上げています。2020年度から南洋理工大学の担当者と共に、本事業に関する意見交換を複数回実施。日中韓の「インフラ人材育成コンソーシアム会議」の運営体制を立ち上げ、オブザーバーとして参加し、2022年度までに本事業内の学生交流に関する覚書と協定書を締結する予定です。



ラオス国立大学(ラオス)



ラオス国内における最高学府として、ラオスの社会・経済発展に必要な分野の高等教育の提供、自然科学及び社会科学、国の芸術・文化・伝統の保守、学術支援の社会提供を担っています。

ラオス国立大学と長崎大学の交流は独立行政法人国際協力機構(JICA)がラオス国公共事業・運輸省に対して実施した道路維持管理に関する技術協力プロジェクトに本学の工学研究科の教員が参加したことが始まりです。その後、学術・研究領域も含めた情報交換を継続し、2019年にラ

オス国立大学工学部(土木工学科)との共同研究課題が「土木学会インフラマネジメント技術国際展開研究助成」に採択されました。現在に到るまで博士後期課程留学生の研究活動派遣や共同実験など、本格的に学術・研究交流を行っています。

さらなる交流体制の構築に向け、「大学の世界展開力強化事業」(第2モード)においても長崎大学で開催した国際シンポジウムにラオス国立大学から教員3人を招いていきます。

長崎大学(日本)

世界展開力強化事業の第2モードで、本学工学部では38人の日本人学生を派遣し、61人の外国人学生を受け入れた実績があります。学生派遣の際には毎年複数回の説明会を開催し、留学中の生活や研究活動などの詳細な内容紹介、留学成果発表会の開催、パンフレットやチラシ、HPでの情報周知などを行い、留学全般に関する相談や支援体制を構築しました。指導教員や国際コーディネーターによるサポート体制も整えています。

留学生の受け入れに関しては、豊富な経験を持つ専属国際コーディネーターを配置。本学の留学生支援課では中国・韓国出身の職員や英語に堪能な職員が連携して支援体制を整備しています。また、長崎県内の産学官が連携して設置した「長崎留学生支援センター」との協働により、イベントの開催や「留学生のためのビジネス日本語コース」の開講などで、幅広い支援を行います。さらに「キャンパス・アジア同窓会」を活用し、情報発信を続けます。



VOICE

参加学生の声

成均館大学校のサマースクールに参加しました。講義には10回出席し、世界の最先端技術や土木技術が世界の国々とどれだけ違いがあるかを知ることができました。BIM（ビルディングインフォメーションモデリング）、AR、MRなどの技術が普及すれば、日本の建設業界の職場環境を改善できると感じました。海の水を飲料水にする技術の講義は、島国に住む私たちにとって非常に興味深いテーマでした。

約1ヶ月間、多くの事を学び、自分の価値観を広げることが出来ました。特別講義を受け、土木の分野も様々な視点から焦点を当て考える事ができ、インフラの可能性に触れることができました。現地で生活することで他国の日本に対するイメージなどを直接聞くことができ、グローバルな問題にも目を向けられるようになりました。

成均館大学校のサマースクールに参加して韓国語の勉強だけではなく、土木分野の知識も身に付けることができました。水環境、遠隔モニタリング、情報技術について3人の先生がそれぞれ自分の研究分野を紹介してくれました。ただ、このプログラムを通じて自分の英語力の不足を痛感しました。これから英語力をもっと上げるために努力したいと思います。

中国の山東大学に6カ月間の単位互換留学をしました。中国の規模の大きさに驚きつつ意味あるプログラムを受けることができました。授業は土木に関する3つの授業と中国の歴史や文化・社会について受け、特にBIMを使った設計の授業は授業スピードが大変でしたがとても面白かったです。生活に慣れてからは旅行にも行きました。旅先では、日本と中国のインフラの違いを肌で感じることができました。留学を通して学習面だけでなく自主性、チャレンジ精神、忍耐力、行動力など内面的にも成長することができたと思っています。

今回の留学は、いろんな方々の助けがあつてこそ実施できたことだと思います。今、理系の学生が海外へ留学に行く機会が減ったに似ていますが、理系の学生だからこそ、学生のうちに海外を経験する必要があると思います。日本には世界最高レベルの技術力がありますが、狭い視野に限られていると、いずれほかの国々にすぐに追いつかれてしまうと思います。日本の技術力発展のためにも、今回の留学で培った広い視野と行動力で、これからも奮闘していきたいと考えています。

水・構造・地盤という土木の基本要素から先進技術まで幅広く学ぶことができました。また、建築や都市設計などにも触れることができ、様々な視点から「土木」を見直す良いきっかけになりました。講師が毎回ユニークな人だったため、授業に引き込まれ、それぞれの授業の記憶が鮮明に思い出されます。韓国から見た日本の技術を直接聞くことで、自分が着手する研究や将来について大きな刺激を受けました。



お問い合わせ



国立大学法人 長崎大学

工学研究科大学院係「大学の世界展開力強化事業担当」

〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14

TEL : 095-819-2614 FAX : 095-819-2627 Email : campus_asia@ml.nagasaki-u.ac.jp

大学の世界展開力強化事業 専用WEBサイト <https://campus-asia.eng.nagasaki-u.ac.jp/>

Website



Facebook

